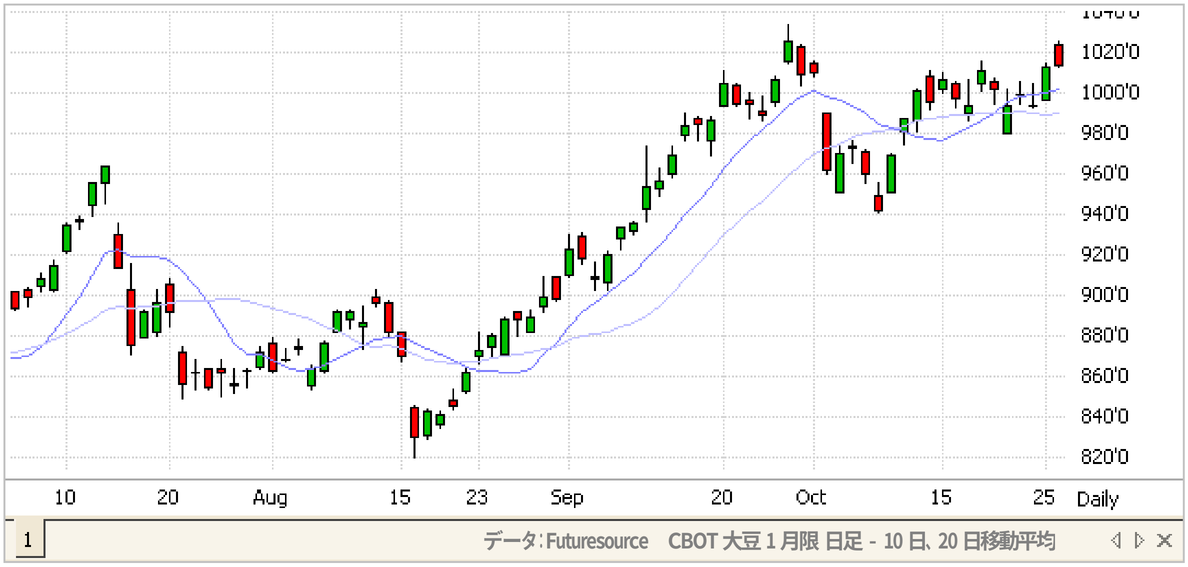
CBOT 大豆 1 月限



サマリー

10 月 26 日終値:	995-1/2 セント/ブッシェル		
今後二週間の予想レンジ:	940-1040	価格目標-短期:	960-940
サプライズがあった場合:	920-1080	価格目標-中長期:	1100-1200

アウトルック: 引き続き方向感のはっきりしない相場展開。FOMC 前後には一時的に値動きが激しくなる可能性高く、明確な相場観がないならポジションを縮小する方が無難。

マーケット・レヴュー (10/15-10/26)

10 月 15 日の週は週初から売り買いが交錯、1 月限は他の商品市場の値動きを気にしながら 10 ドルの節目を中心とした上下を繰り返す展開が続いた。週末から翌 22 日の週にかけてはブラジル生産地の降雨が嫌気され売りが膨らむ場面が見られたものの、ドル安や原油や金の上昇を好感し早々に反発。週後半には原油が最高値を更新するのを好感したファンドの買いが集まり、一時直近の高値を試す水準まで値を伸ばす場面も見られた。

当レポートは信頼に値すると判断した情報を基に作成されていますが、あくまでも情報提供が目的であり、その結果について責任を負うものではありません。
投資の決断は、投資家自身の判断にもとづいて下してください。先物取引はリスクの高い取引であり、多大な損失をもたらす場合があります。
©2007-09 Yosoukai Global Investors, Inc., All rights reserved　・無断転載、引用は固く禁じます。

他の商品に比べ動意薄の展開続く

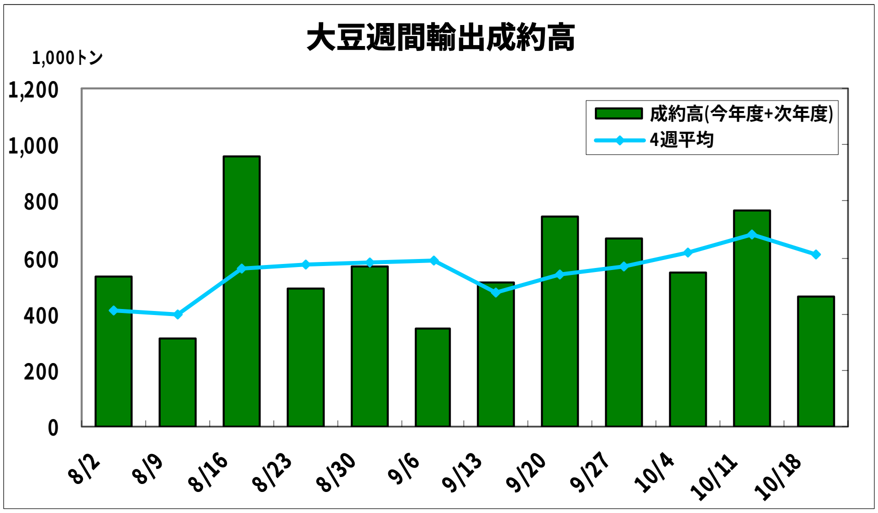
大豆は 12 日に USDA 需給報告が発表されて以降、ピタリと値が動かなくなってしまった。1 月限は 10 ドルの節目を中心にそれまでに比べると明らかに狭い値幅での上下を繰り返すのみ、26 日には一時それまでのレンジを抜けて買い進まれる場面も見られたものの、高値ではすかさず売りが膨らみ値を戻している。金や原油の上昇に素直に反応し値を伸ばすコーンや、価格調整が進む小麦と比べても、動意に欠けていたとの印象は強い。

収穫が進むこの時期は例年、生産者からの売り圧力以外に相場を動かす材料も少なく、動意が薄くなるのも仕方がないところがある。今後市場の注目が集まることになる需要面や南米の生産動向についても、今のところそれほど大きな変化は見られていない。ブラジルでは一時期高温乾燥が続き作付の遅れが懸念されていたが、ここへ来てある程度の降雨が見られたことで材料にはなりづらくなっている。需要面では中国の輸入関税引き下げによって米国の輸出が伸びるのではとの期待が高まったが、こちらも今のところ輸出成約などの数字にそれほど大きく表れているわけではない。

しかしながら、作付減によって米国の生産が大きく落ち込み、目先の需給逼迫が懸念されている状況では、一旦こうしたものが材料視されれば市場が敏感に反応、値動きに大きな影響を与える可能性は高い。ブラジルではこの先主要生産州のマットグロッソなどで再び高温乾燥気候が強まると見られているし、天候が生育に大きく影響するのはむしろ始まるこれからだ。輸出も輸送費の上昇が重石になる可能性はあるが、農産物全体に世界的に供給が不足気味の状況にあって大きく落ち込むことはないと思われる。然るべき時期が来れば、必ずこれらの要因が相場を大きく押し上げることになるだろう。

輸送コストの上昇が輸出を鈍らせる可能性も

26 日に発表された 10 月 18 日までの週の輸出成約高は 46.3 万トンと前週から 39.8%減少した。4 週平均では 61.2 万トンとそれなりのペースは保っているが、少し回復ペースが鈍ってきた。1 週だけの数字で判断するわけにはいかないが、中国の輸出が思ったほど伸びてきていないのが気にかかる。輸送コストの急騰が影響を及ぼし始めているのに加え、作付減で米国の生産が大幅に落ち込んだことで、思ったほど輸出に回す分が市場に出てきていない可能性もある。現時点では米国内に記録的な在庫があるので、あまり影響はないかもしれないが、今後も伸び悩みが続くようなら注意が必要だ。



出所：米農務省　単位：1,000 トン

©2007-09 Yosoukai Global Investors, Inc., All rights reserved　・無断転載、引用は固く禁じます。

アウトルック (10/29-11/9)

目先は引き続き方向感のはっきりとしない展開となるだろう。米国の生産減による国内需給の逼迫見通しは中長期的には大きな買い材料だが、目先すぐに直近の高値を抜けて相場を押し上げるようなインパクトはない。ドル安や原油、金といった他の商品市場の上昇はこれまで同様にファンドの買いを呼び込むだろうが、既に 10 ドルという大きな節目を超えている相場は割高感も強く、割安感が強いコーンほどには強気になれないのが正直なところだ。

特に月末の FOMC 前後には金融市場も含め一時的に値動きが激しくなる可能性があり、特にこれといった相場観がないのならあらかじめポジションを縮小しておいた方が無難だろう。11 ドルあたりまで一気に値を伸ばすことがあるかも知れないが、9 ドル台前半まで簡単に値を戻すことも十分に考えられる。

中長期的には、ブラジルの生育状況が大きな鍵を握るだろう。最近の降雨で作付が進まないとの懸念はある程度解消されたが、天候が大きく作柄に影響する開花期はこれからだ。主要生産州のマットグロッソでは目先再び高温乾燥気候が強まるとの予報が出ており、この先も天候懸念は高まりこそすれ、消えてなくなることはまず考えられない。

米国の生産が大幅に減少、需給逼迫懸念が高まっている状況では、生産第二位のブラジルの動向に対する市場の反応は極めて敏感なものになる。下手をすれば、夏場の米産を対象にした天候相場よりはるかに激しい値動きが見られることもあるかもしれない。来年 1 月あたりまでは、決して気を抜くことの出来ない展開が続きそうだ。

©2007-09 Yosoukai Global Investors, Inc., All rights reserved ・無断転載、引用は固く禁じます。